

# 経営比較分析表

神奈川県 横須賀市

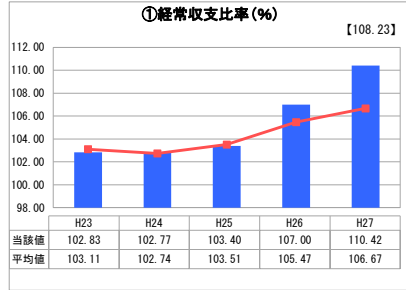
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	下水道事業	公共下水道	Ac1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	63.36	97.73	76.51

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
414,664	100.83	4,112.51
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
402,964	58.50	6,888.27

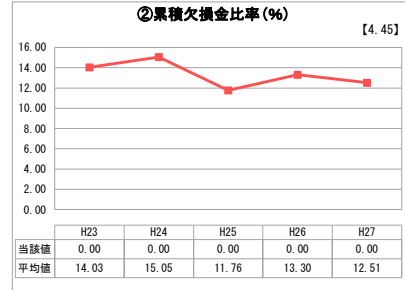
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

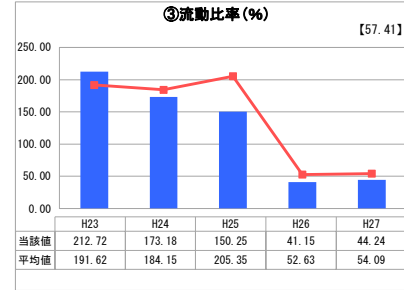
## 1. 経営の健全性・効率性



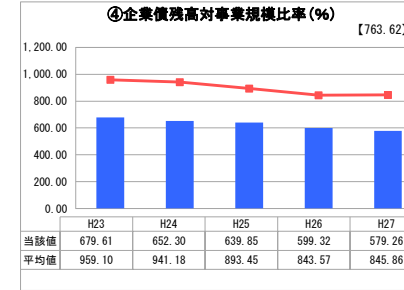
「経常損益」



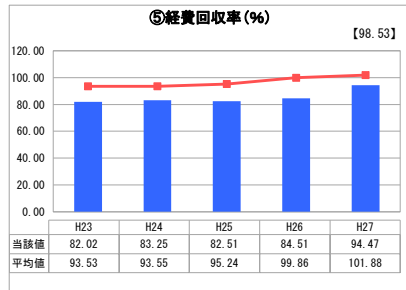
「累積欠損」



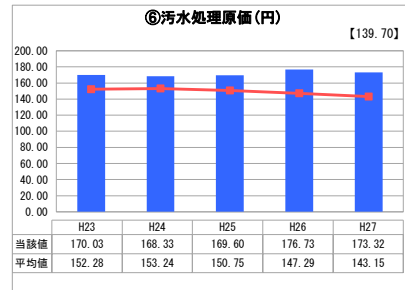
「支払能力」



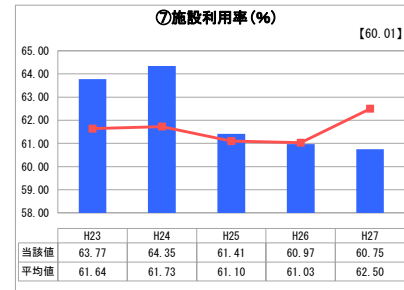
「債務残高」



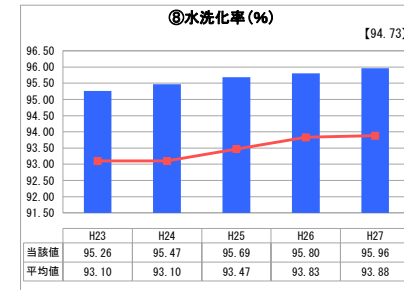
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

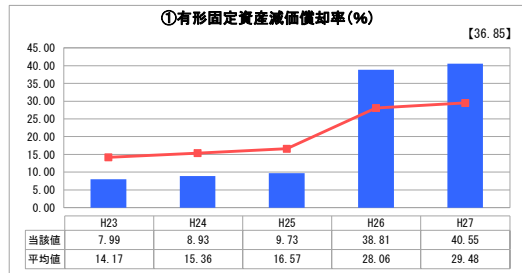


「施設の効率性」

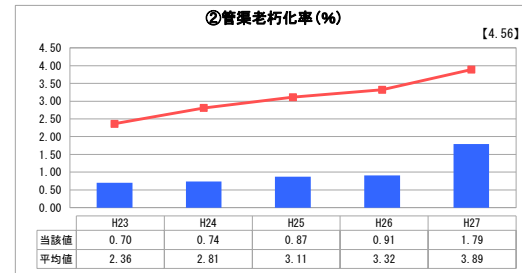


「使用料対象の捕捉」

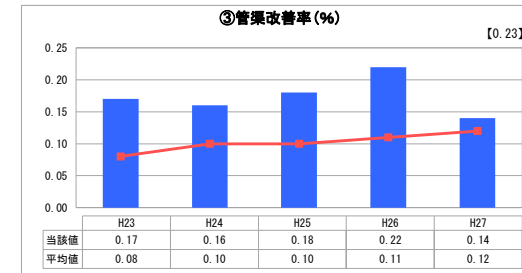
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%以上で類似団体平均値を上回り、②累積欠損比率も引き続き0%となっています。③流動比率は会計制度の変更により100%未満ですが、平成26年10月に使用料改定を行い、短期的な資金は確保しています。④企業債残高対事業規模比率は企業債の償還が進んでいることから減少しています。⑤経費回収率は使用料改定を行ったこともあり、100%に近づいています。⑥汚水処理原価は市内に4か所の終末処理場と18か所のポンプ場を抱えていることもあり、類似団体平均値より高くなっています。⑦施設利用率は人口減少や工場の撤退などにより処理水量が減少しているため減少傾向です。このため、施設の統廃合を実施し施設規模の適正化を図ります。⑧水洗化率は未接続世帯への啓発の効果もあり、僅かずつですが上昇しています。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率が類似団体平均値より高く、②管渠老朽化率は類似団体平均値より低いです。③管渠改善率は類似団体平均値並みですが、今後の更新費用を考慮し、ストックマネジメントを取り入れ長寿命化を図り、工事コスト等の縮減と費用の平準化を図ります。

### 全体総括

本市では、人口減少や工場撤退などにより施設利用率は低下しています。一方で、施設の老朽化が進んでおり、下水道事業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。そのため、下水道施設の更新を着実に実施するため、平成23年度から平成33年度までの上下水道事業の方向性を示したマスタープランを策定しています。このプランの経営目標である「いつでも安心して使える止まらない水道・下水道」の達成に向け、具体的な実行計画を策定し、取り組んでいます。今後は、汚水流入量の減少予測を踏まえ、施設更新時期に併せた施設の統廃合を実施し、施設規模の適正化を図っていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
 ※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。